

構造エネルギー工学専攻（構エネ）における 社会人早期修了プログラム履修のための案内

【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する者は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究科の「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」（システム情報工学研究科HPに掲載）を見て下さい。

また、書類提出前に、指導希望教員と提出書類の内容について相談して下さい。

なお、このプログラム履修審査は、書類審査を原則としますが、場合によっては面接審査を行います。

社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ．概要、Ⅱ．業績リストと付属資料、Ⅲ．達成度自己点検シート、Ⅳ．博士論文の構想の4種類の書類を提出して下さい。

Ⅰ．概要

次の項目について、簡潔にまとめて下さい（1 ページ以内）。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先
(郵便物送付先、電話番号(携帯電話も)、FAX 番号、e-mail address を必ず記載)
- (4) 志望分野・志望教員
- (5) 修士課程時の専門分野（修士課程を修了していない者は学士課程の専門分野）
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項（業績・資格など）

Ⅱ．業績リスト

博士の学位論文の基となる「学術的蓄積」として、次の(1)と(2)が必要です。

- (1) 査読付き学術論文2編以上（筆頭著者であることが望ましい）
- (2) 口頭発表資料2編以上

これらの業績リストを準備するとともに、付属資料として、論文別刷（コピー可）および口頭発表資料コピーを添付して下さい。

なお、(1)については、採録可とされていれば、未刊行のものでもかまいません。その場

合は、採録通知と原稿を合せて添付資料として下さい。

その他に、依頼原稿、講演、各種講師、マスメディアへの出演や掲載、発明・特許、計画・設計などへの応募、これまでに実施してきた研究プロジェクトなどを記載した「業績リスト（構エネ）」を『業績リスト（構エネ）』記載例を参考として作成下さい（ページ数に制限はありません）。

Ⅲ. 達成度自己点検シート

別紙記載例（pdf ファイル『達成度自己点検シート（構エネ）』記載例）を参照しながら、以下に示す達成度評価項目の①～⑦の各々について、自己評価としてA（博士の学位にふさわしいレベル）、B（修士の学位レベル）、あるいはC（学士の学位レベル）のいずれかを入学時審査時の欄に、その根拠とともに、「達成度自己点検シート（構エネ）」に記述して下さい。

原則として、①、③、⑤、⑦についてはA（博士の学位にふさわしいレベル）であることが主張できなければなりません。その他の項目②、④、⑥についてはB（修士の学位レベル）以上を主張して下さい。②、④、⑥についてA（博士の学位にふさわしいレベル）であることを主張しても差し支えありません。

- ① 知識・能力（専門基礎：入学者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか）

業績リストに基づいて「学術的蓄積」として挙げた論文等の内容に従って、専門基礎が博士の学位レベルであることを、端的に、主張して下さい。論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。

- ② 知識（関連分野基礎：専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか）

修士課程のときの学習内容について簡潔に記して下さい。修士課程を修了していない場合は、修士相当の関連分野基礎能力を有していることを客観的かつ具体的に述べて下さい。

- ③ 分析力（現実問題に対する分析力：現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか）

実務の中でどのように現実の問題の知識を得たかについて記すとともに、現実の問題の知識が「学術的蓄積」に現れている箇所について記して下さい。必要に応じて論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。論文を引用せず、実務経験について直接述べることも可能ですが、その際は、業績リストにこれに該当する実務業績を記載して下さい。

④ 教養 (広い視野：博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか)

これまでの経験と学習がどのような形で広い視野を形成するようになったか簡潔に記して下さい。

⑤ 総合力 (問題設定から解決まで：専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか)

「学術的蓄積」として挙げた論文等に基づいて、どのように問題設定を行い、問題を解決していったか、論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。

⑥ 表現力 (コミュニケーション能力と国際的通用性：博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか)

コミュニケーション能力については、これまで行ったプレゼンテーションについて、日時・場所・発表内容を簡単に要約して記して下さい。国際・国内会議などで行ったプレゼンテーションについては必ず含めて下さい。必要に応じて、口頭発表資料等を引用して下さい。

国際的通用性については、国際的な場における経験がどの程度あるか、述べて下さい。必要に応じて業績リストを引用して下さい。

⑦ 総合力 (学術的成果：博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか)

業績リストについて、論文・発表数、特許、実務業績、受賞、特記事項などを要約して下さい。

IV. 博士論文の構想

1. 「学術的蓄積」として挙げた論文等の内容に基づいて、学位論文執筆の構想 について簡潔に (2～4 ページ程度) 記述してください。

2. 上記の学位論文の構想に基づいて学位論文を執筆するにあたり、課題として残されている事があれば記述してください。

3. 関連分野についての簡単なサーベイも記述してください。

4. 上記の執筆にあたっては、研究の背景や問題意識、具体的なテーマと成果について、「学術的蓄積」として挙げた論文等の内容や関連分野との関連も含めて、簡潔に記述するよう努めてください。

社会人早期修了プログラム履修審査の内容について

「達成度自己点検シート（構エネ）」、「業績リスト（構エネ）」などの資料を基に，達成度評価項目別に3段階評価を行います。

A：博士の学位にふさわしいレベル

B：修士の学位レベル

C：学士の学位のレベル

達成度評価項目のうち，①，③，⑤，⑦についてはA，②，④，⑥についてはB以上の評価をもって履修可と判定します。

【2】履修が承認された場合の学修について

- ・構造エネルギー工学後期特別研究 (6単位)
- ・構造エネルギー工学後期特別演習 (2単位)
- ・講義科目 2単位

の合計 10 単位の取得が必要です。講義科目について、どの科目を受講するかについては、本プログラム受講が承認された後、指導教員と相談して決めてください。これらを履修することによって、予備審査時には、①～⑦すべての項目について予備審査に入れるレベルに到達している必要があります。

中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム受講開始から 3～4 ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（構エネ）」の中間審査時の欄に自己評価レベルを記入提出し、担当教員の指導を受けて下さい。

予備審査について

予備審査の申請にあたって、中間審査時に提出した「達成度自己点検シート（構エネ）」の予備審査時の欄に自己評価レベルを記入提出し、①～⑦すべての項目について、入学後何を学び、博士予備審査のレベルに達したかを述べて下さい。

なお、履修すべき科目数と履修内容については、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従って下さい。

予備審査時には、次の 2 点を審査します。

- (1) ①～⑦すべての項目について A（博士審査に入れるレベル）以上であることの確認
- (2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文に着手することを認められます。

【参考】 社会人博士後期課程早期修了プログラム達成度評価項目と修了時の達成度の目安

① 知識・能力（専門基礎）

履修者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

② 知識（関連分野基礎）

専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

③ 分析力（現実問題に対する分析力）

現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。

④ 教養（広い視野）

博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。

⑤ 総合力（問題設定から解決まで）

専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。

⑥ 表現力（コミュニケーション能力と国際的通用性）

博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。

⑦ 総合力（学術的成果）

博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。